

3. 調査結果(事例調査)

全国の総合型地域スポーツクラブにおいて、障害者が様々な形で参加していることが質問紙調査から確認された。クラブにおける障害者の活動の実態を把握するため、事例ヒアリング調査を行い、参加状況、参加の経緯、障害の種類、活動種目などの多様性を考慮し、活動状況をクラブ別にまとめた。

図表 3-53 事例調査で対象とした総合型クラブの概要

クラブ名	所在地	障害者の参加状況	障害者の参加経緯	参加している(していた)障害者	活動種目
高知チャレンジドクラブ	高知県 高知市	障害者を主な対象としたプログラムに障害者と健常者が参加	障害者スポーツセンターを拠点に障害者と健常者が共に活動するクラブを設立	肢体不自由、知的障害、発達障害、聴覚障害、視覚障害、内部障害、精神障害、音声言語またはそしゃく機能障害、重複障害	トランポリン、バドミントン、水泳など15種目以上
筆の里スポーツクラブ	広島県 熊野町	一般のプログラムに参加	一般のプログラムに障害者の参加希望	肢体不自由、知的障害、発達障害、内部障害	グラウンド・ゴルフ 卓球
七瀬の里Nクラブ	大分県 大分市	障害者と健常者のスポーツ交流イベントに参加	障害者と健常者が一緒に参加できるイベントを実施	肢体不自由、知的障害、発達障害	車椅子バスケットボール、卓球、スナッグゴルフ
ユニオンスポーツクラブ	埼玉県 桶川市	一般のプログラムに参加	指導者とのつながりで障害児対象の教室を開設	知的障害、発達障害	トランポリン
新湊カモンスポーツクラブ	富山県 射水市	障害者を主な対象としたプログラムに障害者と健常者が参加	障害者のサークルをクラブに勧誘	視覚障害	サウンドテーブルテニス
エンジョイスポーツクラブ魚沼	新潟県 魚沼市	一般のプログラムに参加	一般のプログラムに障害者の参加希望	知的障害	エアロビクス
くしびきスポーツクラブ	山形県 鶴岡市			肢体不自由	スポーツ吹き矢 カローリング
鹿角くらすた	秋田県 鹿角市			聴覚障害	卓球
A-Lifeなんかん	熊本県 南関町			視覚障害	柔道

高知チャレンジクラブ

障害者スポーツセンターを拠点にした総合型地域スポーツクラブ

1. 高知県立障害者スポーツセンターと総合型地域スポーツクラブの設立

スポーツを通じて障害者の健康の維持増進、社会参加を促進することを目的とし、1996年に高知県立障害者スポーツセンター（以下、障害者スポーツセンター）が、高知県のほぼ中央に位置する旧春野町（現高知市）に設立された。施設にはグラウンド、アーチェリー場、テニスコート、事務室、医務室、トレーニング室、卓球室、盲人卓球室、研修室等が整備され、高知県における障害者スポーツの普及啓発の拠点施設となっている。開設当時は年間約18,000人であった利用者が2012年度には45,000人を超えるようになり、スポーツを通じた、障害者と健常者の交流の場として利用されている。

そして、この交流の大きな柱となっているのが、2007年に障害者スポーツセンターを活動拠点として設立された、総合型地域スポーツクラブ「高知チャレンジクラブ」であり、子供からお年寄りまであらゆる年代の人々が、障害の有無にかかわらず、生涯にわたってスポーツを楽しめるユニバーサルなスポーツクラブを目指して活動している。

2. 障害者の参加状況

全てのプログラムが障害者の参加を前提としているが、多くのプログラムに健常者も参加しており、障害者のみのプログラムは少ない。小・中・高等学校等に出張する「障害者スポーツ体験教室」や、障害者が日常的に余り体験することのできない「バリアフリーダイビング体験教室」なども実施している（表1）。

表1 2012年度の主な教室やサークル

プログラムの形態	プログラム	対象者
サークル	バドミントン 卓球 テニス シットイングバレーボール ビームライフル 水泳 クライミング おしゃべりウォーキングサークル	誰でも 誰でも 障害児・者とその家族 誰でも 障害児・者 障害児・者 視覚障害者とその関係者 障害児・者とその家族
教室	トランポリンと体操教室 骨盤ゆがみ改善ストレッチ教室 スマイルエアロビ教室 体の力を伸ばす塾	障害児・者と健常児 誰でも 誰でも 子供（3歳～12歳）
イベントなど	アウトドア自然体験教室 ヨット体験教室 バリアフリーフィッシング バリアフリーダイビング スキー教室 夏祭り ユニバーサル・フェスティバル	子供 とその家族 障害児とその家族 障害児・者とその家族 障害者とその家族 クラブ会員 地域住民 地域住民
出前教室	障害者スポーツ体験教室	小中高等学校や地域のイベント等
講習会	サポートダイバー養成講習会	ダイビング有資格者

◆主なプログラムの特徴

トランポリンと体操教室:

最も参加者が多い教室である。発達障害児・者が多く、毎回定員(20人)を越す参加状況である。募集対象は障害者が中心だが、障害児の家族として同伴した兄弟なども参加できる。

バドミントンサークル:

参加者には身体・知的・精神の3障害全てが含まれている。車椅子使用者、片麻痺、切断など様々な身体障害のある人が特に介助もなく参加している。障害者の家族の参加も多く、小学校低学年から70歳前後まで幅広い年齢層の方が参加しているのも特徴である。楽しむことに重点を置いているため指導者はいないが参加者同士で教え合うなど、それぞれの役割を自分たちで考えうまく活動している。

サポートダイバー養成:

障害者がダイビングを安全に行うための、サポート(支援)スタッフの養成講習会。過去にも養成を行ってきたが、障害者ダイバーも増えてきており、支援体制を厚くしていくために開催。また、サポートダイバーを現場で統括するインストラクター養成講習会も同時に開催している。



障害者スポーツ体験教室



障害者のためのバリアフリーダイビング

3. 指導者の状況

指導者約40人のうち、日本障害者スポーツ協会公認指導者は25人。うち上級資格者が8人、スポーツコーチが1人在籍。日本障害者スポーツ協会の資格を持たない指導者のうち、健康運動指導士が2人いるほか、競技別の有資格指導者も多い。また、障害のある指導者は約10人在籍している。

4. 連携・支援

行政:

現在、文部科学省「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」の事業を受託していることから、県教育委員会とは日常的に障害者スポーツ事業に関する情報交換を行っており、障害者スポーツの体験会として開催しているユニバーサルフェスティバルでは、企画段階から入り、当日も人的支援を受けている。また、クラブマネージャー養成の経緯で県体育協会との連携も取りやすい関係性にある。

社会福祉協議会:

障害者スポーツセンターの母体が、高知県社会福祉協議会(以下、県社協)であることから、県内の市町村社会福祉協議会とも連携を取りやすい関係性にあり、地域住民により近い組織として、事業実施

時には、アドバイスや人的協力を受けるなどしている。

特別支援学校：

事業実施時には、会場として体育館・グラウンドなどを借用。教員と障害児が駅伝チームを組んでイベントに参加している事例もある。

一般競技団体：

基本的には、教室・サークルの指導者派遣を依頼。県トランポリン協会や県体操協会、県水泳連盟や県テニス協会の指導者が指導を行っている。

その他：

体験教室等の活動では、山岳会や観光振興会と、イベント等ではスポーツ推進委員や婦人会、老人会とも連携。

5. その他

上記のように、障害者スポーツセンターを拠点に、高知チャレンジドクラブは様々な活動を行い、障害者スポーツの裾野を広げてきているが、高知県の東西に広い地域特性から、中央部に通えない、県東部や西部の障害者スポーツの普及は遅れているのが現状である。

そこで、高知チャレンジドクラブの姉妹クラブとして、2010年には県西部地域を活動拠点とした「ユニバーサル四万十」を四万十市に設立。現在、県内では西部と中部の2か所で障害のある人を中心とした総合型クラブが活動を行っている。今後は、ユニバーサル四万十の活動の充実と、東部地域への新たなクラブの設立が課題である。

クラブの概要

- 所在地： 高知県高知市春野町内ノ谷 1-1
(高知県立障害者スポーツセンター内)
- 設立年： 2007 年
- 会員数： 310 人
- 主な活動種目： トランポリンと体操、バドミントン、水泳、車椅子バスケットボール等
- 主な活動場所： 体育館、グラウンド、プール等
- 指導者数： 約 40 人

筆の里スポーツクラブ

障害者を特別視せず、会員みんなが同じ仲間意識で活動できるクラブ

1. 障害者参加の経緯

クラブ設立当初、障害者団体から「自分たちも運動をしたい」との声が届いたため、比較的安全に肢体不自由者、視覚障害者が高齢者等と一緒に活動できる種目として、室内グラウンド・ゴルフのクラブを障害者対象で立ち上げた。仲間作りの観点から、障害者限定にせず、健常者も同時に受け入れた。その後も障害者家族団体を通じて参加希望があった。

2. 障害者の参加状況

(1) 障害者が参加しているプログラム

【肢体不自由】【内部障害】

グラウンド・ゴルフ、卓球

【知的障害・発達障害】

卓球、ラージボール卓球、ソフトバレーボール

- ・ 知的障害と発達障害がある会員(高校生)はヘルパー同行、小学生は親子同伴で参加している。
- ・ 障害者のための特別なプログラムはない。
- ・ 障害者スポーツについては、町の福祉課と連携して取組を進めている。

(2) 「体力アップ教室」への参加

高齢化に向けた介護予防教室として「体力アップ教室」を開催している。リハビリを終了したが体力にまだ自信がない者、病気等で体力が落ちていたり、身体に不自由を感じていたりする者を対象としている。主に軽い体操などを行う。現在 5 年目。これまでに脳血管障害で半身不随になった者等が十数人参加しており、現在も新たな参加者が増え定員オーバーとなり、教室数を増やし参加者も増えている。

(3) 指導やプログラム運営上の留意点・工夫

- ・ 指導者は内部障害等について留意が必要な事項を把握しているが、基本的には会員の自己管理で活動に参加している。
- ・ ヘルパー同行で受け入れている障害者についても指導者が特別な準備等はしていない。

(4) 指導者の状況

- ・ クラブマネジャーは健康運動指導士、障害者スポーツ指導員の資格を有しているが、それ以外に障害者スポーツ指導員の資格を有する指導者はいない。
- ・ クラブ指導者のうち、何らかの指導者資格を有している者は半数程度である。
- ・ 指導者の資質として仲間作りをサポートし、みんなで楽しく健康作りに取り組める環境を作ることができる能力を重視している。

3. 主な成果

「ラージボール卓球教室」に参加の 30 代と 40 代の障害者は、体力の回復に合わせ、職場復帰を果たすことができた。また、「体力アップ教室」に参加していた 60 代の障害者は、次のステップとして軽度のス

スポーツに参加したいという意向があり、開催クラブの一つであるラージボール卓球に参加できるまでに回復した。新たにエアロビクスや体操にも参加し、スポーツの楽しさを味わっている。



室内グラウンド・ゴルフ教室



障害の有無にかかわらず卓球を楽しんでいる

クラブの概要

- 所在地： 広島県安芸郡熊野町川角 5-10-1
- 設立年： 1995 年
- 会員数： 1,035 人
- 主な活動種目： バレーボール(ビーチボールバレー含む)、バドミントン、卓球(ラージボール卓球含む)
グラウンド・ゴルフ、健康体操、エアロビクス等
- 主な活動場所： 体育館、グラウンド、公民館等
- 指導者数： 約 95 人

NPO 法人七瀬の里 N クラブ

イベントを通じた障害者スポーツとの交流 パラリンピック選手の上手さも体感

1. 障害者参加の経緯

クラブでは、会員の交流イベント「N スポファミリースポーツ感謝祭」を毎年開催してきた。大分県障がい者体育協会からの障害者スポーツとの交流の提案を受けて、2008 年度以降は感謝祭に障害者スポーツ体験やスポーツを通じた障害者との交流の要素を加えて開催している。

2. 障害者の参加状況

(1) N スポファミリースポーツ感謝祭

・ 交流種目(2011 年度):

車椅子バスケットボール、卓球、スナッグゴルフ(過去には、テニス、バドミントン、フットサルも実施)

・ 参加した障害者:

障害者は、大分県障がい者体育協会の声掛けで参加している。

【肢体不自由】

車椅子バスケットボール: 県の連盟から派遣された選手など約 6 人

卓球: 県内の障害者卓球クラブのメンバー約 5 人

【知的障害・発達障害】

スナッグゴルフ: 県内の児童養護施設に入所する障害者約 8 人

・ クラブ会員の参加者:

車椅子バスケットボールはミニバスケットボールの小学生、卓球は中高年、スナッグゴルフは硬式野球の中学生を中心に、3 種目におよそ 90 人が参加した。

・ プログラム実施の工夫:

健全者と障害者とで混合チームを組んでゲームをしたり、同じ空間でスポーツを楽しめたりできるよう心掛けています。

(2) 支援・連携

人的支援として、保護者や児童福祉施設の職員がボランティアとして運営をサポートしている。

(3) 指導やプログラム運営上の留意点・工夫

参加するクラブの会員に対して、障害者に関する事前の指導はしていない。指導者が事前集まることもない。

(4) 実施の課題

- ・ 聴覚障害者が過去に参加した時、イベント後の交流会では手話ボランティアが通訳した。聴覚障害者の日常的な参加には、手話ができるスタッフの確保が望ましい。
- ・ 指導者間の事前打合せができれば良いが、スケジュール調整ができず実現していない。

3. 主な成果

クラブでは、このようなイベントを実施して良かったと感じている。卓球は障害者と健常者が一緒に楽しみ、また、障害者の方がうまいこともあると分かり、日常的に障害者が参加することへの抵抗感は薄れた。卓球を一緒にした障害者がパラリンピックに出ているのを見て、健常者側が尊敬の目で見えるようになった。車椅子の扱い方などの指導を受け、子供たちにとっては障害への理解にもつながっている。イベントは障害者参加の初期段階で、受入れのハードルを下げるために効果的である。



車椅子バスケットボール体験の様子

クラブの概要

- 所在地： 大分県大分市大字野津原 800
- 設立年： 2004 年
- 会員数： 約 700 人
- 主な活動種目： サッカー、フットサル、バスケットボール、陸上競技、野球、テニス等
- 主な活動場所： 体育館、グラウンド、テニスコート(屋外) 等
- 指導者数： 約 58 人

NPO 法人ユニオンスポーツクラブ

1. 障害者参加の経緯

元々、クラブのプログラムとして器械体操クラブがあり、トランポリンの指導者とのつながりがあった。その指導者が養護学校で障害児の指導をしていたことから、クラブでも指導してもらうことになり、障害児対象の教室の開設を試みた。

2. 障害者の参加状況

【知的障害、発達障害】トランポリン教室

- ・当初は障害児対象の教室であったが、現在は一般のプログラムとして参加者を募集しており、教室では障害児と健常児と一緒に参加している。障害児には個別に対応する方法で指導を行っている。
- ・参加者は12～13人であり、そのうち障害児は2、3人である。
- ・トランポリン教室は週2回開催されており、障害児は週1回の参加である。
- ・指導者は4人(専任:1人、補助:3人)
- ・使用しているトランポリンは2台
- ・障害児の会費は一般会員と同様の金額である(4,200円)。

3. 指導の際の工夫や配慮、サポート体制

- ・指導の際はマンツーマンで指導し、保護者も付き添っている。
- ・クラブとしては特別な配慮をしておらず、障害児を受け入れること自体には負担を感じていない。
- ・クラブ運営側から見ても、プログラムの様子は楽しそうであり、指導に大変さを感じない。
- ・指導の際は、マットを敷くなどの安全対策をしっかりと行っている。

クラブの概要

○所在地: 埼玉県桶川市上日出谷 1253-3

○設立年: 2003年

○会員数: 350人

○主な活動種目: フットサル、サッカー、ソフトバレー、硬式テニス、トランポリン、体操、新体操、軟式野球 等

○主な活動場所: 体育館、テニスコート、グラウンド

NPO 法人新湊カモンスポーツクラブ

1. 障害者参加の経緯

総合型クラブと同じ施設で活動していた視覚障害者のサークルを勧誘し、クラブのメンバーに入ってもらった。

2. 障害者の参加状況

【視覚障害者】サウンドテーブルテニス

- ・市内の視覚障害者協会のメンバーによるサウンドテーブルテニスのサークル活動をクラブに組み込み、他の会員にも開かれた、障害の有無を問わず参加できる教室にした。
- ・活動の中心は以前のサークルのメンバー約 15 人(うち 10 人程度が視覚障害者)
- ・クラブの体験イベントなどを通じて、子供たちにサウンドテーブルテニスを楽しんでもらう機会も生まれている。
- ・教室の参加費は無料だが、クラブの年会費(一般は 4,800 円)を徴収している。
- ・指導者には教室に対する指導謝金を支給している。
- ・クラブが行政に働き掛けて、体育館前バス停から体育館玄関までの点字ブロックシート(歩道)を設置したり、サウンドテーブルテニス台の追加購入の支援を受けたりするなど、視覚障害者の活動の充実につながっている。

クラブの概要

- 所在地： 富山県射水市久々湊 467 番地
- 設立年： 2004 年
- 会員数： 1,382 人
- 主な活動種目： バドミントン、新体操、卓球、サッカー、エアロビクス、ジュニア体操、テニス 等
- 主な活動場所： 体育館、テニスコート、グラウンド、多目的室 等(新湊総合体育館を指定管理)

NPO 法人エンジョイスポーツクラブ魚沼

1. 障害者参加の経緯

市内の障害者施設から、知的障害者のスポーツ活動参加の要望があり、クラブの一般向けのプログラムで受け入れた。

2. 障害者の参加状況

【知的障害者】エアロビクス

- ・ 主に中高年を対象に昼間に実施されているソフトエアロビクスのプログラムに、施設のスタッフ(=介助者)が車で送迎してきた知的障害者が参加
- ・ 週1回 40分、定員 15人のプログラムに 1年間参加(2009年度)
- ・ 参加者は日によって異なるが、主に 20～30歳代の障害者が多い時で 5～6人参加
- ・ 障害者の参加料は無料
- ・ 中には突然大声を出す障害者もあり、一般の参加者には当初戸惑いも見られたが、徐々に慣れ、障害者と健常者の間にコミュニケーションも芽生えた。
- ・ 障害者施設側からの要望がないので、現在は受け入れていない。

クラブの概要

- 所在地：新潟県魚沼市井口新田 267 番地
- 設立年：2003 年
- 会員数：約 740 人
- 主な活動種目：硬式野球、フットサル、若返りトレーニング、エアロビクス等
- 主な活動場所：体育館、トレーニングルーム、コミュニティーセンター等

くしびきスポーツクラブ

1. 障害者参加の経緯

車椅子の男性(60代)がクラブの会員募集チラシを見て参加を申し込んだ。その後口コミもあり、車椅子の会員は2人に増えている。

2. 障害者の参加状況

【肢体不自由】スポーツ吹き矢、カローリング

- ・それぞれ月に2回実施されているスポーツ吹き矢とカローリングの教室に参加
- ・どちらも中高年が中心の教室で、1回の参加者は10人程度
- ・得点等、競技上の配慮はしていないが、活動の動線及び健康面には常に注視し、配慮している。
- ・車椅子の会員2人は自ら車を運転して自宅から活動場所に来るので、送迎等は不要
- ・施設内で段差のある場所には、クラブのスタッフがスロープを置いて車椅子の移動をサポートしている。

クラブの概要

○所在地：山形県鶴岡市三千刈字清和 158-1

○設立年：2008年

○会員数：約240人

○主な活動種目：バンポン(櫛引で発展した軽スポーツ)、卓球・ラージボール、ソフトバレーボール、バドミントン
エクササイズ等

○主な活動場所：鶴岡市櫛引スポーツセンター、体育館、武道場等

鹿角くらすた

1. 障害者参加の経緯

クラブでは、市のイベントでクラブをPRする無料体験コーナーを設けている。こうしたPR活動を通じてクラブを知った特別支援学校に通う男子高校生から参加希望があった。

2. 障害者の参加状況

【聴覚障害者】卓球

- ・ 障害のある会員は、普段は特別支援学校の寮に入っている。学校でも卓球部に所属しており、学校が休みで帰省している時にクラブの活動に参加している。
- ・ クラブの通常の活動は水曜日の夜と土曜日の昼間。幼児から 80 歳代までが会員で、1 回の活動には 30 人前後が参加している。
- ・ はっきりとしゃべれば補聴器を通じて指導者の声を聞き取れる。また、本人も言葉で意思を伝えることができる。このため、指導者や他の会員も、障害があることを意識した特別な対応はしていない。
- ・ 特別支援学校の卓球部では、聾者の全国大会に出場している。こうした活躍はクラブの会員にもいい刺激を与えている。

クラブの概要

- 所在地： 秋田県鹿角市花輪字鶴田 46-10 C-2
- 設立年： 2008 年
- 会員数： 約 120 人
- 主な活動種目： ラージボール卓球、硬式卓球、ニュースポーツ
- 主な活動場所： 体育館 等

NPO 法人 A-Life なんかん

1. 障害者参加の経緯

特別支援学校に通う小学生(低学年男子)から参加希望があった。障害があっても、できる範囲で安全にスポーツを楽しんでもらえるとの判断で受け入れた。

2. 障害者の参加状況

【視覚障害者】柔道

- ・ 幼児から大人までが対象の柔道教室に参加(中学校の武道場で週 2 日開催。1 回の参加者約17人)
- ・ 保護者が車で送迎している。
- ・ 身振りで伝えられない部分を補うため、指導者 1 人が横についてマンツーマンで指導
- ・ 安全確保のため、受け身なども投げ込みマットの上で行っている。
- ・ 特に指示していないが、小学校高学年の子供が率先して面倒を見るなど、クラブ会員の障害に対する理解の促進に役立っている。

クラブの概要

○所在地: 熊本県玉名郡南関町大字関町 1324 番地

○設立年: 2012 年

(2005 年設立の総合型クラブ「南関すこやかスポーツクラブ」と南関町体育協会が合併して設立)

○会員数: 661 人

○主な活動種目: バドミントン、柔道、バレーボール、剣道、日本拳法、スイムレッスン等

○主な活動場所: 小・中学校体育館、中学校武道場、プール、テニスコート等